

はくさい

栽培暦

月 旬	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主 な 作 業				○ —————									■					
				播種			追中除肥			耕草			収穫					
	←————— 病虫害防除 —————→																	

■栽培のポイント

1. 発芽まで土壌の乾燥に注意する。
2. 結球が見えたら、追肥はしない。
3. 根こぶ病対策を十分に行う。
4. 播種は適期に行う。

■特性 発芽、生育適温は18～22℃、結球適温は15～16℃で、冷涼な気候を好む。
土壌適応性は広いが、耕土が深く、有機物が多く、肥沃で排水の良い沖積土が適地である。

■品種・種子量 無双、黄ごころ85、きらぼし85、黄愛75、泰黄60。a 当り 40 ml。

■播種期 8月15～20日

■播種準備 アブラナ科の連作地や、酸性土壌、排水不良地では根こぶ病が発生しやすいので輪作し、土壌改良等で排水を良くする。

施肥 基肥は窒素成分でa 当り 2 kgをめどにし、全層施肥とする。土壌酸度を測定し、酸性の場合は苦土石灰等を施用してpH 6.0～6.5に矯正する。

うねづくり うね幅 75 cm、株間 40～45 cm、またはベッド幅 90 cm、通路 60 cm、株間 40～45 cm、条間 45 cmの2条植えとし、うねは半高うねとする。

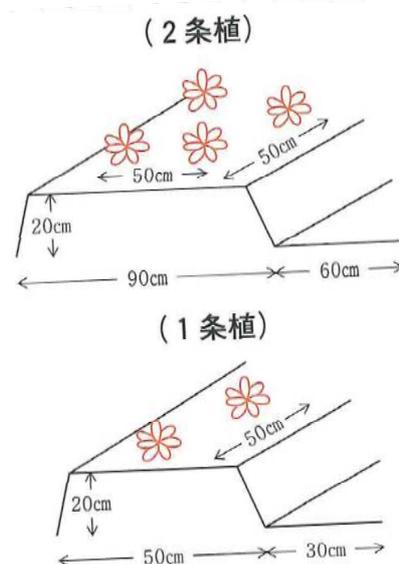
■播種 1穴10粒の散種とする。播種時、土壌水分不足であれば、播き穴に十分かん水し、平らに手直しを行い播種する。覆土後粗がらをかけ乾燥を防ぐ。育苗後定植する栽培では、直播きよりも5～7日早播きし、寒冷しゃ内で育苗する。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
堆肥	200kg	—kg	成分量
BMようりん	6	—	窒素 2.5 kg
苦土石灰	12	—	リン酸 2.9
MMB14号	12	—	加里 2.3
麟硝安加里 S604	—	5	
または NK化成 808			



■間引き 本葉1枚頃に播き穴当り5株ほど、本葉4~5枚時に1株残す。

■追肥 中耕、除草 追肥総量は窒素成分で6kgをめどに1~2回に分けて施用する。第1回目は、播種後20日頃施用し除草を兼ねて中耕し土をまぜ合わせる。その後20日目に第2回目を行う。遅くなり葉や茎に傷をつけると病害発生の原因となりやすい。

■病虫害防除 根こぶ病が発生しやすいので、連作を避け、作付け前防除を行う。軟腐病、黒斑病、白斑病は過湿条件で発生しやすいので、排水対策を徹底する。軟腐病は害虫の食痕や傷口から侵入するので、アブラムシ、ヨトウムシ、アオムシ防除も徹底する。

■収穫 結球のしまり具合をみて進んだものから順次収穫する。目標収量 a 当り 800 kg。

ちょっと一服

ねぎのペーパーポット及びセルトレイ育苗法

省力育苗である「ねぎのペーパーポット及びセルトレイ育苗法」取組んではどうですか！

- ①育苗面積が少なく、ハウスで集約的に管理できる。
- ②小苗を1ヵ所当り多本数定植するため、苗取りや定植作業が省力。
- ③土壌が肥沃であれば密植が容易で、増収が可能である。
- ④定植時の断根が少ないため、慣行栽培より生育が早い。

しかし、2点が欠点です。

- ①育苗時のコストが高い(使用する用土には十分注意する)
- ②育苗時の生育不良や不揃いは回復が困難。